

シリーズ—召命—  
どうして神父さまに!!

瀧野正三郎 神父



今回は京都教区司祭瀧野正三郎神父に  
お話を伺いました。



(2009年6月)  
2010年6月に、  
掲載したシリーズの  
続編です)

●は編集子  
○は瀧野神父

○ カトリックとの出会いを聞かせてく  
ださい。

● 私の母は、平安女学院の時代に、聖  
公会の洗礼を受けました。小さい頃、  
私は、家の近くにある烏丸三条の日本  
基督教団の教会の礼拝と日曜学校に  
通っていました。一番上の兄が洛星に  
入って、中学一年の時に病気になった  
のをきっかけに、兄がカトリックの洗  
礼を受けました。それで、母もカト  
リックに改宗しました。私も、兄と同  
じ洛星に入り、信者の担任にさそわれ  
て、河原町教会の主日のミサに毎週参

加していました。三年間通った後、卒  
業後の春休みに、復活祭に洗礼を受け  
るために、中高生の何人かで、小野神  
父から集中講義を受けました。

○ 神父様になろうと思われたお話を聞  
かせてください。

● 高校二年の終わりの進路を決める時  
に、自分は団塊の世代で、ゆりかごか  
ら墓場まで競争して生きて行くのはい  
やだと思いい、身近にいる、教会で働く  
司祭を見て、こういう生き方もいいの  
ではないかと思いい、母に伝えました。  
母は古屋司教から洗礼を受けていたの  
で、さっそく、司教に会いに行きまし  
た。そうしたら、答えは、「大学に行っ  
てからでもいいのではないか」と言わ  
れ、とりあえず、大学入試を目指すこ  
とになりました。ところが、高校三年  
生の六月に、二歳の時に手術した腸閉  
塞の影響で、腸が捻じれたままで、再  
び腸閉塞で手術するために入院しまし  
た。その時に、母から、「二歳の時に、  
この子が神様に必要とされるのなら、  
お助け下さい」と祈ったと聞かされま  
した。まわりのみんなが、受験勉強に  
熱中している時に、しばらくの間、入

院していたこともあり、じつくりと考  
えた結果、やっぱり、高校を卒業した  
ら神学校に行こうと決心しました。

○ 神学生になられてからのお話を聞か  
せてください。

● 神学校に入学したのは一九六五年  
で、まだ、第二バチカン公会議の成果  
が神学校では実施されていなかったの  
で、トレント公会議後のままの養成を  
受けました。ところが、哲学科三年の  
時、上智大学の学園紛争が起こり、神  
学校の生活も急激に変化していきまし  
た。哲学の勉強後、私たちの時代には、  
中間期の制度があり、一年間、ガラス  
工場で、働きました。その時に実感し  
たのは、四年間学んだことは、普通に  
生活している人には通用しないという  
ことでした。後半の四年間は、イエズ  
ス会の神父の指導から、教区司祭の指  
導に代わり、決められたことを守って  
いけばよかった生活から、自立した生  
活を求められるようになりました。つ  
まり、監督制神学校から、責任制神学  
校に変わったのです。そのおかげで、受  
け身の姿勢ではなく、自ら切り開く姿  
勢を、身につけることができました。

○ 司祭になってからどうでしたか。

● 司祭になって一年目の時、西野神父が教会の近くの民家を借りて、働く人の家として、JOC（カトリック青年労働者連盟）の活動をされていました。近いこともあり、青年の集まりにも参加しました。教会では、歳が若くても、司祭の立場で出会うことをしいられました。JOCでは、一人の人間として対等に付き合えることが、とても新鮮でした。そのこともあり、司祭生活の大部分を、働く若者との活動に力をいれてきました。今は小教区で働く司祭が少ないこともあり、JOCでは、全国会計の協力者として活動しています。